

2026 年度 第 2 四半期レポート

2026 年 10 月 23 日

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

内容

【第1章】 運営委員会からの活動報告	3
1. 2026年度 第2四半期に入会いただいた新規会員	3
【第2章】 SOCからの活動報告	4
1. 2026年度 第2四半期の概要	4
1) 脅威・脆弱性情報の報告件数	4
2) 脅威・脆弱性情報レベル	5
3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2社間での同一案件の比率	6
【第3章】 技術委員会からの活動報告	7
1. はじめに	7
2. 2026年度活動計画と実績報告	8
3. ◆【トピック報告】 2026年度協同演習（2026年7月21日開催）	9
【第4章】 CSECC活動報告	11
1. はじめに	11
2. 2026年度のCSECC活動計画について	11

【第1章】 運営委員会からの活動報告

1. 2026 年度 第 2 四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

＜賛助会員＞ アビームコンサルティング株式会社

＜賛助会員＞ ゼットスケラー株式会社

※2026 年 9 月 30 日時点の会員数 121 社 + 学術会員 3 名

【第2章】 SOC からの活動報告

1. 2026 年度 第 2 四半期の概要

1) 脅威・脆弱性情報の報告件数

2026 年 7 月から 9 月の第 2 四半期において提供された週次情報レポートは、合計 130 件となりました。

内訳は図 1 に示す通りです。

脅威・脆弱性情報は 93 件、業界動向情報は 37 件となっており、脅威・脆弱性情報の報告件数は 2026 年度第 1 四半期（98 件）とほぼ同等の水準となりました。

なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報やインシデントの発生は確認されていません。

- | | | |
|------------|------|-----------------------|
| ① 脅威・脆弱性情報 | 93 件 | （2026 年度第 1 四半期：98 件） |
| ② 業界動向情報 | 37 件 | （2026 年度第 1 四半期：36 件） |

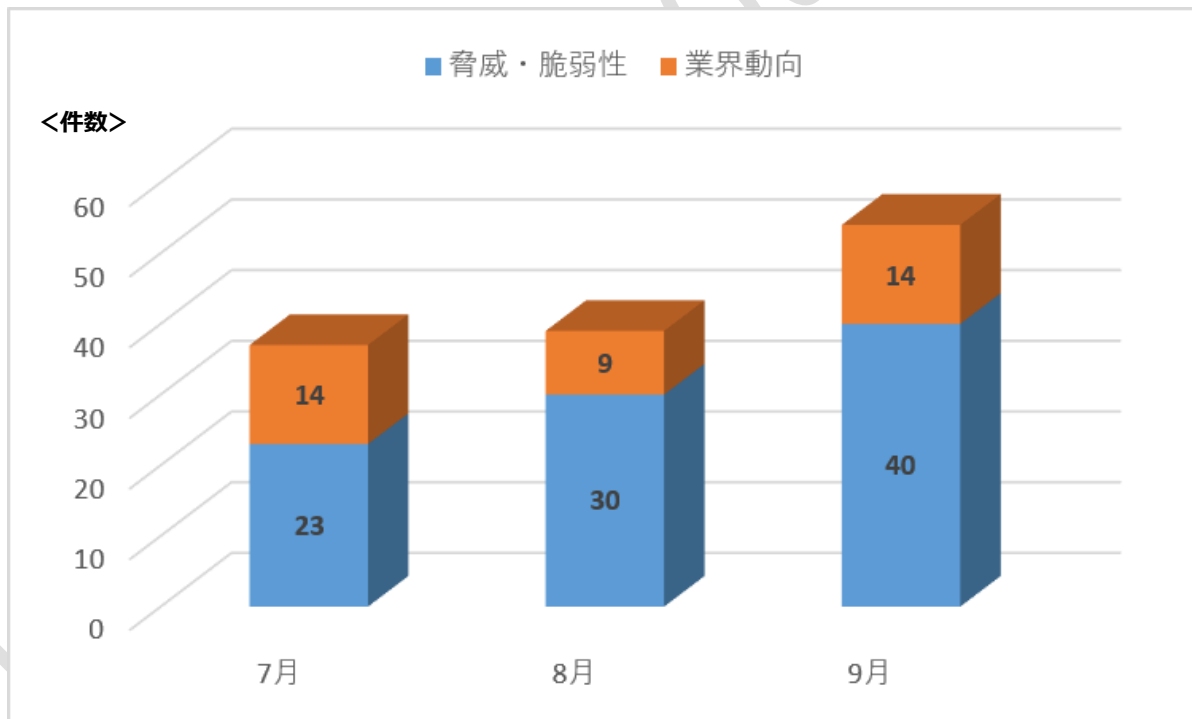


図 1 週次情報レポート 提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に係わる情報のみであり、かつ同一案件を除く

2) 脅威・脆弱性情報レベル

第2四半期に報告した脅威・脆弱性情報の分類は、図2に示すとおりです。

重大情報に該当する案件はありませんでしたが、要注意情報は平均20件／月となり、2026年度第1四半期の平均21件／月とほぼ同等の水準でした。

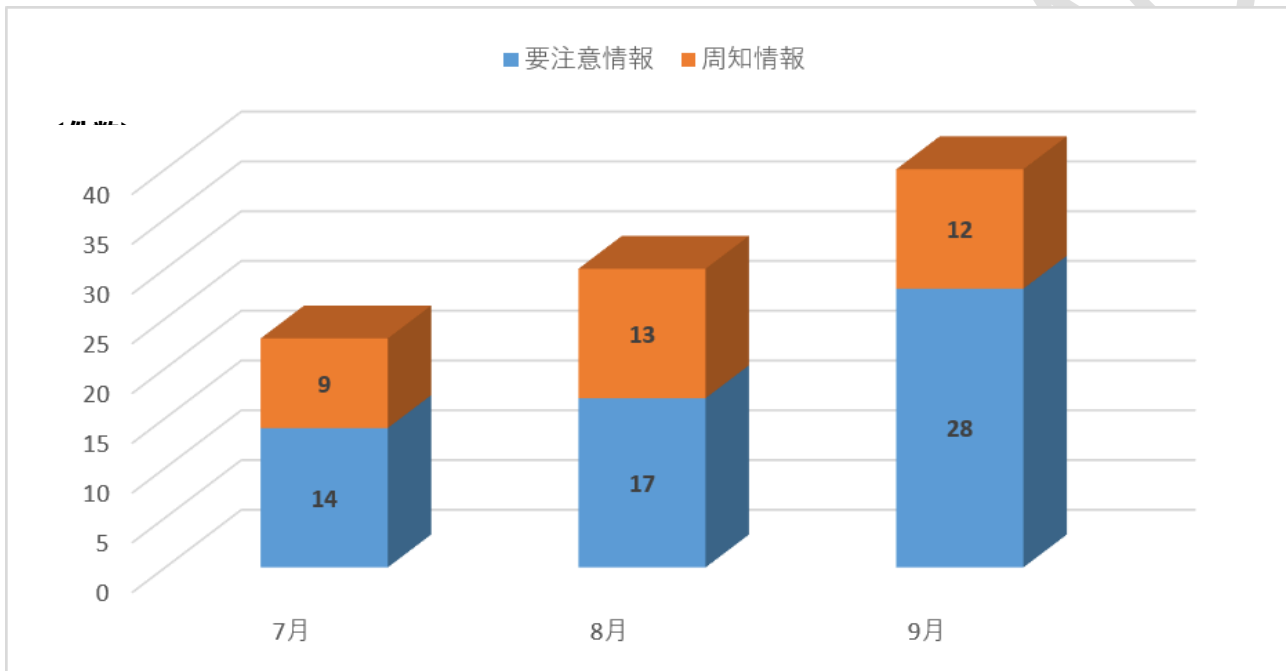


図2 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

<参考>

※1.要注意情報：

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が低い脅威・脆弱性情報

※2.周知情報：

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3.重大情報：

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

3) 脅威・脆弱性情報の提供ベンダー2 社間での同一案件の比率

2 社から提供された脅威・脆弱性情報における同一情報の比率は、図 3 に示すとおり平均約 10% でした。これは 2026 年度第 1 四半期（約 14%）と比較しても大きな差はなく、ほぼ同等の水準となりました。

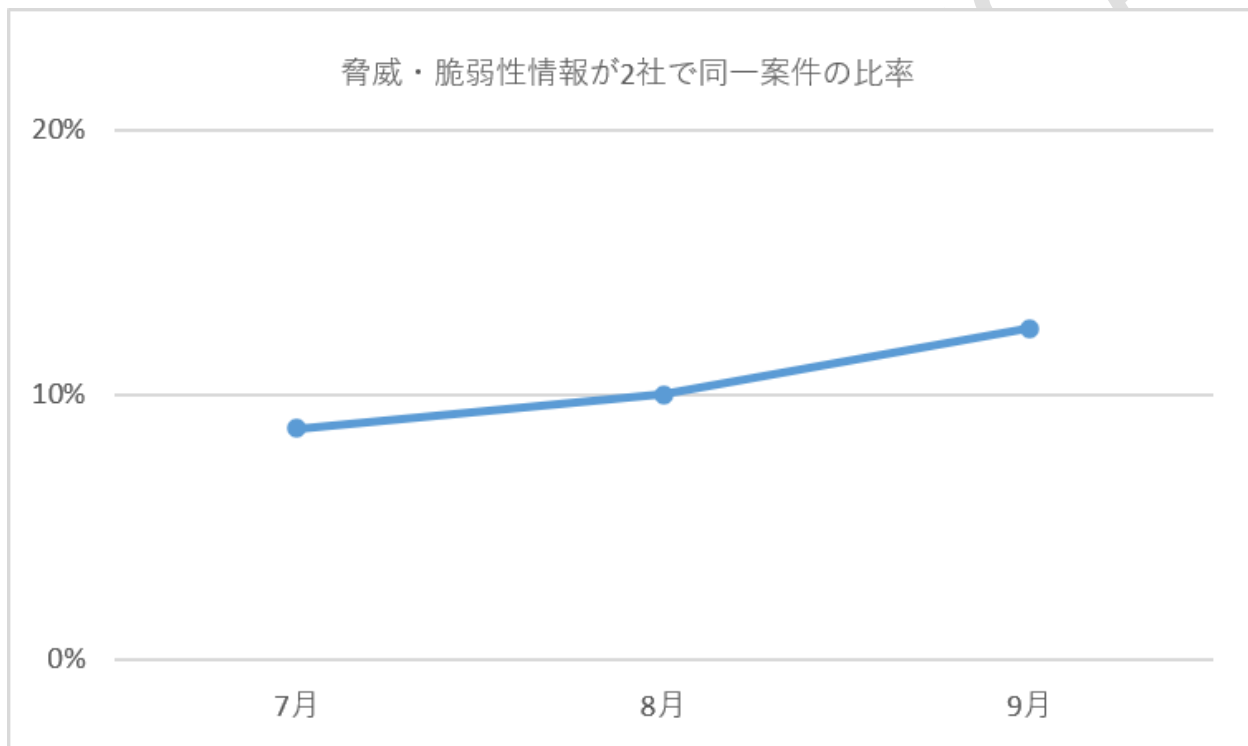


図 3 脅威・脆弱性情報 同一案件比率

【第3章】 技術委員会からの活動報告

1. はじめに

技術委員会は、2026 年 4 月より 2WG/6SWG/1TF に再編され、2026 年度の計画に則って活動を推進しています。今回は、その施策の一つである協同演習を 7 月 21 日（火）に実施しているので、その概要を本章のトピックとして報告します。

2. 2026 年度活動計画と実績報告

1) 2026 年度活動計画

表 1：2026 年度実施項目

実施項目
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と TF 活動を通じて参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る活動の継続

本計画（実施項目）に基づき、具体的な目標と取り組み方策を明確にして実行し、技術委員会活動をさらに発展させます。

2) 技術委員会活動成果物

表 2：活動成果物一覧（発行成果物と発行予定）※太枠は第 2 四半期分

時期	成果物
2026 年 5 月	・第 7 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2026 年 6 月	・サプライチェーンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み_改訂版（TC 内公開） ・サプライチェーンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み_付属書（TC 内公開） ・サプライチェーンリスク対応 TF 成果まとめ_クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティの取り組み_想定事例集（TC 内公開）
2026 年 7 月	・協同演習の開催（@2026/7/21） ・製品セキュリティ品質保証プロセスにおけるインシデントレスポンスの手引き_ver1.10（TC 内公開） ・初学者の虎の巻 ver.2（TC 内公開）
2026 年 9 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1 ・脆弱性分析レポート#1 ・協同演習速報
2026 年 12 月	・第 8 回活動報告会（各 SWG/TF 活動・実績報告書） ・初学者の虎の巻 ver.2（一般公開） ・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・協同演習レポート
2027 年 3 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・US-Auto-ISAC BP 取込み（ガバナンス）（TC 内公開） ・US-Auto-ISAC BP 取込み（SDLC）（TC 内公開） ・脆弱性分析レポート#2 ・脆弱性対応帳票 & ガイド（TC 内公開）

2026 年度も成果物を社内外へ展開していきます。

3. ◆【トピック報告】 2026 年度協同演習（2026 年 7 月 21 日開催）

年 1 回継続して開催している協同演習を本年度も開催しました。以下、概要を報告します。



1) ねらい

俯瞰的に脆弱性対応に係わるプロセスを体験すること

- 脆弱性の検知から対応方針の決定までを含む
- OEM とサプライヤの両者が当事者かつ連携が求められる脆弱性を扱う

2) 26 年度協同演習概要

・オンラインと対面のハイブリッド開催 **41 社(前年-10 社) 268 名(前年+7 名) が参加**

OEM、サプライヤ、ベンダーなどの企業レベルでの多様性に加え、品証部門、開発部門、PSIRT など様々な立場の担当者様にご参加いただきました。

・車両不具合に関するユーザからの問い合わせに対し、OEM とサプライヤが協力して対応することをテーマとして実施

- セキュリティの体制やプロセスの整備状況が異なる企業、特に OEM とサプライヤが連携し、双方の視点から意見交換を行うことで気づきや学びを得て、自社の改善活動につなげることが目的
- 事前に提供された課題について各社が検討した回答を持ち寄り、演習当日に OEM・サプライヤで構成されたチームにて協議・検討の上、チームとして脆弱性対応方針を決定
 - ・ チーム各社の回答や考え方の共有
 - ・ リスク値、対応方針の議論・決定
 - ・ 暫定対応、恒久対策の検討・決定

演習自体の目的としては概ね達成され、参加者同士の相互理解促進、脆弱性対応に関する理解度向上に貢献できました。

ただ、各チームにおいて協議時間不足が散見されており、各ステージでの論点整理、合意形成に向けた進め方明確化、ならびに設問や資料構成の改善が必要という課題も確認できました。

次回の演習をより良くすべく改善検討を進め、サプライチェーン全体での連携強化とサイバーセキュリティ対応力の向上に向け、継続的に活動を推進してまいります。

【第4章】 CSECC 活動報告

1. はじめに

サイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）では、自動車業界全体のサイバーセキュリティ対応能力を中長期的な視野で底上げすることを目標に、日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPAR、日本自動車部品工業会（JAPIA）、Auto-ISAC などの業界団体と連携し、抜け漏れのない CS 品質向上活動の実現を目指しています。

現在、CSECC 傘下には 2 つのワーキンググループ（WG）があり、セキュリティ人材育成 WG には 19 社から 24 名、SBOM-WG には 30 社から 52 名が参加しています。また 7 月よりリニューアルしたグローバル連携 TF に 9 社から 12 名が参加する体制で活動を開始しました。これらの WG や TF では、業界連携に必要な成果物の策定を行うとともに、参加メンバーによる実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を提供しています。

今回は 2026 年度 7 月にリニューアルして活動を開始したグローバル連携 TF の活動状況を本章のトピックとして報告します。

2. 2026 年度の CSECC 活動計画について

従来、グローバル連携 TF への参加者は北米 Auto-ISAC 参加企業に限定していましたが、今年度より J-Auto-ISAC 会員企業に拡大しました。北米 Auto-ISAC との連携を深化させ、J-Auto-ISAC 会員企業に対米連携成果を提供し、会員企業の実務対応力強化を図ることを目的とします。

本年度 7 月、第 1 回のグローバル連携 TF の活動をキックオフしました。また、9 月に北米 Auto-ISAC との第 1 回連携会議を開催し、教育をテーマに意見交換を行いました。北米 Auto-ISAC 連携会議では、北米 Auto-ISAC より ACT（Automotive Cybersecurity Training program）について情報共有を受け、継続して教育をテーマに連携して取り組むことを決定しています。

リニューアルしたグローバル連携 TF は、北米 Auto-ISAC からの情報を受け取るだけでなく、J-Auto-ISAC の会員企業の実務に活かせる成果物展開を目指し活動していきます。

以上

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

<https://j-auto-isac.or.jp/>